

平成27年2月25日

平成26年度第2回京都市明るい選挙推進協議会総会（摘録）

1 日時 平成27年2月25日（水）午後2時から午後3時15分

2 場所 本能寺文化会館 4階「櫺」

3 出席者

(1) 委員（◎は会長，○は副会長 敬称略）

京都大学名誉教授	◎木下 富雄
立命館大学名誉教授	○村山 皓
京都新聞社論説委員長	○山中 英之
ジャーナリスト	木下 明美
株式会社京都放送局報道局長	刀禰 隆司
京都市地域女性連合会常任委員	市原 民子
京都市選挙管理委員会委員長	宇都宮 壮一
東山区選挙管理委員会委員長	村井 明
山科区選挙管理委員会委員長	稲本 浩一

(2) 事務局

京都市選挙管理委員会事務局長	藤川 好寿
〃 次長	境 康伸
〃 選挙課担当課長	田中 稔彦
〃 選挙課啓発係長	井上 俊彦
〃 選挙課書記	中世古 実穂

4 摘録

(1) 会長挨拶

(2) 協議

○京都市議会議員一般選挙・京都府議会議員一般選挙における選挙時啓発計画（案）について

事務局：「京都市議会議員一般選挙・京都府議会議員一般選挙における選挙時啓発計画（案）」資料に基づき説明。

委員：フラッシュモブのダンサーは誰になるのか。

事務局：代理店がプロのダンサーを手配する。

委員：選挙公報はいつ届くのか。早めに作成できないのか。

事務局：4月6日以降に市政協力委員のもとへ順次配布していく。原稿は告示日に提出してもらっている。その日に掲載順を決め、徹夜で印刷業者に稼働してもらおうが、印刷・配送の期間が必要なためどう

しても市民の手元に届くまでには時間がかかる。衆院選に関しては原稿データが国、府を通じて市に届くこともあるため遅くなってしまう。

委員：京都さくらよさこいはどんな祭りなのか。

事務局：毎年4月に行うイベントで、市役所広場のステージで全国から集まった学生達がよさこい踊りを披露する。市内の有権者も観客としてたくさん集まると考えている。

委員：フラッシュモブやカフェ等はビジュアル的に面白いのでKBSとしてもぜひ取り上げてバックアップしていきたい。

委員：啓発にかける予算はどのくらいか。

事務局：プロポーザルとして提示したのは800万。それ以外の啓発にかける予算も含めると1300万程度になる。

委員：投票所が減ったり時間を繰り上げたりするところはあるのか。

事務局：衆院選のときから投票所の数は変わらず、市内計290か所。一部場所を変更する区はある。投票時間を変更する所はない。

委員：電子投票は本当にやめるのか。

事務局：条例廃止案を市議会に提出した。現状では国政選挙での実施が見込めず市長選でしか実施できないことやコストがかかってしまうこともあり続けていけないと判断した。

委員：庁内放送で市民だけでなく職員へも投票を呼び掛けているが、それは政治的な行動を促すことにならないのか。公的機関として違和感がある。

事務局：特別な啓発活動ではなく、市民への呼びかけと同時に職員にも棄権防止を呼びかけている。

(3) 報告事項

○本年度事業（ポスター募集、論文募集、新成人啓発、出前授業）について

事務局：「報告事項 平成26年度常時啓発事業の実施状況について」説明

委員：主権者教育という観点から考えると4校では少ないように思う。

事務局：今年初めての事業ということもあり、手探りで進めた。区選管でも取組んでいくことで広がっていければと考えている。

委員：18歳選挙権が実現されればもっと身近な問題になる。人間的に難しい部分については市民と協力する等できないか。

事務局：右京区では学生サポーターを中心に先行して進めていっている。市でも伏見区で行った出前授業では龍谷大学の学生と協力して実施した。

委員：学校側の問題もある。選挙だけでなく多方面から出前授業等の依頼があるが、現場はカリキュラムの調整が必要になったり、忙しいため、入り込む余地がない。全国的に出前授業は広まってきているが、学生の協力が得られる地域だとより進みやすい傾向にある。

委員：学校市のような組織はないのか。昔は学校で自治会のような組織があり、選挙も本物に近い形で行っていた。

委員：小さい頃から親しんでいたため、大人になっても選挙は行くべきだという意識がある。

事務局：教育環境についてはこちらで把握できていない部分が多い。

委員：事務局でも一度調べてみてください。

(4) 第28期京都市明るい選挙推進協議会委員について

事務局：(大学卒業のため交代となる委員以外の委員の継続就任を依頼する)

(15:15終了)